

公募町民・町議会議員・特別職・行政職員対象合同研修募集要項

1 目的

全員参画型地域活性化を成功させるための土台作りである『共通ベンチマーク地』の是非検討

2 ベンチマーク自治体特性

ここで重要なことは、『見た目』の地形や地勢ではなく、事業目的及び特性が錦江町各エリアの実情に適合するか否かであり、下記については、地形や地勢に照らした組み合わせでは、一見逆のように思われるが、政策適合性を検討の結果であることを理解されたい。

3 錦江町と研修地の親和性

- 1) 長野県下條村 : 大根占中心市街地及び国道269号線沿い
- 2) 徳島県美波町 : 田代全域・宿利原・池田及び神川
- 3) 徳島県神山町 : 田代全域・宿利原・池田及び神川

4 実施時期及び日程

1) 実施時期

- ・第1班 10月24日(月)～26日(水) 2泊3日
- ・第2班 11月14日(月)～16日(水) 2泊3日

2) 日程

◆1日目【10/24・11/14(月)】

	全日空 542 便				(昼食)			
田代支所	===	錦江町役場	===	鹿児島空港	————伊丹空港	===	下條村『道の駅』	==
				7:35	8:45	9:30	12:00	12:40
(伊藤元村長講座)		(若者定住住宅／住民改修道路)						
==	下條村役場	==	==	村内視察と住民との意見交換	==	==	土岐市内宿泊施設(泊)	
	12:50	15:30	15:40		17:30	18:30		

◆2日目【10/25・11/15(火)】

	(昼食)		(首都圏からの移住者誘致成功事例)				
土岐市宿舎	==	==	==	美波町または神山町役場	==	==	徳島市又は美波町(泊)
	7:00		13:30		17:30		18:00
	7:30		14:00		18:00		18:30

◆3日目【10/26・11/16(水)】

	(昼食)							
徳島市又は美波町	==	==	神山町(サテライトオフィス見学)	==	==	神山町内レストラン	==	
			9:30		11:30	12:00	13:00	
			全日空 551 便					
==	伊丹空港	————	鹿児島空港	==	==	錦江町役場	==	田代支所
	18:00	19:40	20:50	21:30				

※田代支所及び本庁の発着時間及び移動方法については後日お知らせします。

5 実施概要

1) 定員：1回18名以内（2回合計36名以内）

2) 公募対象者

- ・町民（公募／次代を担う各分野のリーダー候補）：1回6名以内（2回合計12名以内）
- ・町議会議員（希望者）：1回6名以内（2回合計12名以内）
- ・行政特別職（希望者）及び一般職員（希望者）：1回6名以内（2回合計12名以内）

3) 参加条件

- ・町内に住民票があること
- ・事前学習会に参加できること
- ・地域づくりに興味があること
- ・参加費及び現地費用を負担できること
- ・レポート（本研修で学んだことを踏まえ、未来志向な錦江町の有り方政策提言A4 1枚程度）

4) 応募多数又は少数の場合の対応

- ・応募多数の場合は、領域毎に抽選を行う。（公平分配方式採用）
- ・全ての領域で応募少数の場合は、個々に事情を確認の上、2回に分散してもらう。
- ・一部領域で応募少数の場合は、別領域のキャンセル待ち参加希望者を繰上げて参加登録をする。

5) 募集期間

- ・募集開始日：9月15日（木）9時
- ・募集終了日：10月7日（金）17時
- ・応募が定員を超えた場合は10月7日（金）中に応募者超過領域の希望者へ抽選の旨連絡
- ・抽選日：10月11日（火）抽選終了後、該当領域の希望者へ当落連絡

6) 募集案内方法

- ・町広報誌、防災無線、町HP

7) 申込方法

- ・政策企画課への電話申し込み

8) 事前説明会・学習会 **※参加条件にて全員受講が原則**

- ・1回目：10月17日（月）19時～20時30分
- ・2回目：10月18日（火）19時～20時30分
- ・3回目：11月7日（月）19時～20時30分
- ・4回目：11月8日（火）19時～20時30分

9) 負担費用

- ・参加費：1万円（交通費の一部、国内旅行保険代、昼食代3回分）
- ・現地徴収：1日目、2日目の夕食を兼ねた研修参加者交流会費

6 ベンチマーク地の特徴と学ぶべきこと

1) 長野県下條村の特徴

①概況

- ・面積：38.12 km²
- ・可住面積：11.48 km²
- ・人口：4,012人（2015年）
- ・人口密度：108人/km²
- ・隣接自治体：飯田市（自動車移動で30分程度）・阿南町・阿智町・泰阜村
- ・合併：単独
- ・主産業：村営住宅入居者をはじめ、飯田市在勤者が多い。主要産業は農業で、ソバ、ナシ、リンゴ、干柿など。また、親田地区で栽培される「親田辛味大根」は、一般の青首大根に比べ辛味成分イソチオシアネートを4倍近く含む激辛大根であり、おろし蕎麦用の高級薬味として重宝されている。
- ・農業粗生産額（H20）：12.2億円（錦江町：約107億円）

②学ぶべき政策

- ・特徴1：実質公債費率▲**6.4%**（H27年度全国1位）
- ・特徴2：ふるさと納税年間受付**1,000件超**
- ・特徴3：村議会議員選挙3期連続無投票でありながら、**半分以上が新人議員**
- ・特徴4：**資材支給事業**等、出来ることは住民自ら汗を流して行う「自立性の高さ」
- ・特徴5：中山間地でありながら、日本創生会議が試算した**20～30代女性の人口変化率で県内最少減少予測**
- ・特徴6：町職員（普通公務員）39名のみ
- ・特徴7：町単独事業『**若者定住促進住宅制度**』の成功
- ・特徴8：**高校生まで医療費無料**など、子育て支援事業の充実
- ・特徴9：就学年齢人口 568人 14.5%（819人 10.3%）
生産年齢人口 2,071人 53.0%（3,772人 47.6%）
高齢人口 1,272人 32.5%（3,328人 42.0%）
※カッコ内数値は平成27年度国調人口速報より（総人口7,920人）
- ・特徴10：直近20年間の人口動態では**25人増加**している。（錦江町は3,688人減少）

③研修講師

- ・伊藤 喜平氏（元村長／在職期間24年）
- ・村民の方々

2) 下條村での研修内容

①伊藤 喜平氏による『講座』 13時00分～15時00分

- ・町づくりに臨むにあたっての『強い想い』を学ぶ
- ・課題発見～解決、検証までのプロセスを学ぶ
- ・村民を巻き込み村政を進めた『意義と効果』について学ぶ
- ・講座中に、積極的にご解説頂きたい政策は次の通り
- ・少子化対策・子育て支援
- ・高齢者支援
- ・地方創生定住促進施策
- ・教育環境の充実施策
- ・資材支給事業
- ・財政再建と役場内組織・意識改革

- ・ 村民意識改革
- ②若者定住促進住宅入居者との『面談』及び『現地見学』 15時30分～16時15分
 - ・ 施設内部見学
 - ・ 入居者との面談（現場で立ち話程度）
- ③資材支給事業参画村民との『面談』及び『現地見学』 16時30分～17時30分
 - ・ 補修箇所見学
 - ・ 事業に参画した村民との面談（現場で立ち話程度）

3) 徳島県美波町の特徴

①概況

- ・ 面積：140.85 km² 可住面積：15.72 km²
- ・ 人口：7,487人（2015年）
- ・ 人口密度：55人/km²
- ・ 隣接自治体：阿南市（人口7.2万人）、那賀郡那賀町、海部郡海陽町、牟岐町
- ・ 合併：海部郡由岐町・海部郡日和佐町（2006年合併）
- ・ 主産業：農業・漁業等
- ・ 農業粗生産額：10.8億円

②学ぶべき政策

- ・ 特徴1：90年代～00年代は社会減が100人を超えることも珍しくなかったが、**2014年以降、施策効果が現れ、社会増**に転じている。
- ・ 特徴2：徳島県と連携して定住型、移住型サテライトオフィスによる**IT企業誘致**を促進している。
- ・ 特徴3：地元出身のIT企業オーナーと連携し、**地域住民を巻き込んで地域密着型の企業誘致**を進めている。
- ・ 特徴4：**ワークライフバランス重視型企業**の取り込みなど、政府がこれから本格的に取り組もうとしている政策を先取りして実践している。

③吉田コメント

美波町のサテライトオフィス企業誘致の推進力は『役場総務企画課』の鍛冶氏と同町出身でITベンチャー企業社長の吉田氏である。

地元貢献する役場職員と地元強いロイヤリティを有する民間企業経営者の組み合わせは、理想的ともいえる。

更に地域住民が彼らを支えており、役場×ソト者×住民の三方良しの事業であることが、事業を継続性のあるものに行っていると見える。

つまり、優秀人材を地元から輩出出来ている地域にこそ『変革』が訪れることを意味している。

4) 美波町での研修内容

①美波町役場総務企画課 鍛冶氏による『概要説明』

- ・ とくしまサテライトオフィスプロジェクト in 美波 について
- ・ 行政の支援体制について（ハード・ソフト）
- ・ 施策効果について
- ・ 地域住民との関係性について（理解や協力状況）
- ・ 課題について
- ・ 将来構想について

②株式会社『あわえ』吉田氏または山下氏による『戦略説明』

- ・ サテライトプロジェクトで『あわえ』が果たした役割
- ・ 地元出身者である吉田氏が町のプロジェクトに関わる意味
- ・ 現状課題について

- ・ 将来構想について
- ・ 他地域と美波町とのかかわり方

③町内サテライトオフィスの見学と勤務者の方との意見交換

- ・ 公共施設再利用型
- ・ 古商家再生型
- ・ 古民家再生型

5) 徳島県神山町の特徴

①概況

- ・ 面積：173.31 km² 可住面積：30.45 km²
- ・ 人口：5,990人（2015年）
- ・ 人口密度：36人/km²
- ・ 隣接自治体：徳島市、吉野川市、美馬市、名西郡石井町、那賀郡那賀町、勝浦郡上勝町、名東郡佐那河内村
- ・ 合併：単独
- ・ 主産業：農業（スタチ生産で日本一のシェア）

②学ぶべき政策

- ・ 特徴1：神山町の場合秀逸なリーダーが持続的かつ連続的に地域活動を実践してきた結果であり昨今取組みを始めたばかりの自治体とは『理念』において圧倒的な差がある。
- ・ 特徴2：1955年の町制施行後、初めて**社会動態人口が2011年増加**に転じた。
- ・ 特徴3：中山間地の自治体としては初の『**創造的過疎**』（Creative Depopulation）思想を提唱。
『過疎化の現状を受け入れ、数では無く内容を改善。外部から若者やクリエイティブ人材を誘致することによって人口構成の健全化を図るとともに、ICTインフラ等を活用し、多様な働き方を実現できるビジネスの場としての価値を高めることによって、**農林業のみに頼らない、バランスの取れた持続可能な地域を目指す。**』
- ・ 特徴4：神山プロジェクトの推進
サテライトオフィス：働く場所を選ばない企業誘致
ワークインレジデンス：町の将来にとって必要となる働き手や起業者の誘致
神山塾：厚労省支援による後継人材の育成塾
- ・ 特徴5：ワークライフバランス重視型移住者誘致など、政府がこれから本格的に取り組もうとしている政策を既に相当期間実践している。

③吉田コメント

論より証拠というより他は無く、錦江町よりも条件の悪い地形でも、志のある優秀な人材を誘致できていることや、彼らの『創造的過疎』思想は間違いなく今後主流になると思われる。

しかし、一部組織からスタートした取組みであったせいも、地域住民の巻き込みが不足している気がしてならない。町民への落とし込み方において『敷居』が高いと感じることがある。

従って、地域住民を巻き込む手法については、他地域を参考にすべきであると判断する。

6) 神山町での研修内容

- ①NPO法人『グリーンバレー』担当者によるサテライトオフィス見学
- ②進出企業代表者による概要説明と意見交換
- ③『週4日』のみ営業しているフレンチレストラン見学